

山形県経済動向月例報告（令和3年9月分）について

＜本県経済の現状判断＞ ※

	前回(8月)	判断の 変化方向	今回(9月)
総括 判断	本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然、厳しい産業もあるものの、全体としては持ち直しつつある。		本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然、厳しい産業もあるものの、 <u>緩やかに持ち直している。</u>
個人 消費	サービス消費で引き続き厳しい状況が続いているものの、財消費においては堅調に推移しており、着実に持ち直している。		(同 じ) 【7月】
鉱工業 生産	持ち直しているものの、このところ足踏み感がみられる。		<u>持ち直している。</u> 【6月】
雇用 情勢	感染症の影響により、一部で弱い動きが続いているものの、総じてみれば緩やかな改善が続いている。		感染症の影響により、一部で弱い動きが続いているものの、総じてみれば <u>改善している。</u> 【7月】

※今回は、令和3年7月分の各種経済指標を中心とした判断。矢印は、前月と比較しての変化方向を示す。

【上記判断の理由】

○個人消費

- ・スーパーやドラッグストアなどの「6業態販売額」は、内食需要の継続や猛暑による夏物商品の売上増加等により、3か月ぶりに前年同月を上回った。(全店舗ベースで+3.9%) 一方で、新車登録届出台数は、海外での感染症再拡大に伴う部品生産減少の影響による供給制約が起きたことなどにより、小型車及び軽自動車の販売が落ち込み、10か月ぶりに前年同月を下回った。
- ・宿泊・観光については、高齢者のワクチン接種の進展や、「県民泊まってお出かけキャンペーン」の効果により県内客に動きは出ているが、首都圏等の感染再拡大により県外客の減少が続いており、全体としては依然としてコロナ禍前の水準を下回っている。(観光庁・宿泊旅行統計調査速報(6月)によると、県内の延べ宿泊者数は2019年同月比で△49.5%)
- ・以上のとおり基調に大きな変化がないことから、前月からの変化方向については据え置き(横向きの矢印)とした。

○鉱工業生産

- ・令和3年6月の指数(103.8(H27=100))は前月比+6.4%と2か月ぶりに上昇。前々年の2019年同月との比較でも+3.5%と上回った。全22業種中20業種が前月比でプラスになるなど、幅広い業種で指数が上昇したことから、判断を上方修正した。

○雇用情勢

- ・一部業種の新規求人の動きは依然として弱いままであるが、有効求人倍率が令和2年2月以来17か月ぶりに1.3倍台を回復して1.35倍になるなど、改善の動きが続いていることから、判断を上方修正した。

○「総括判断」の前月からの変化方向について

- ・対面型サービス業や関連業種は依然として厳しい状態にあるものの、本県の基幹産業である製造業が牽引し、生産・雇用情勢の改善基調が続いていることから、判断を上方修正した。

以上